

[Material]

## **A Report on the Hybrid Type Public Health Nursing Practice (in 2020 and 2021) during the COVID-19 pandemic**

Akiko Furusawa\*, Mieko Kawabata\*, Hiroshi Abe\* and Fumiko Sato\*

\* Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Aino University

**Key Words** : COVID- 19, Public health nursing practice, Public health nursing Education, Online practice, Hybrid  
type practice

## コロナ禍におけるハイブリッド型公衆衛生看護学実習 (2020年度, 2021年度) の実践報告

古澤 朗子\*, 河端 三恵子\*, 阿部 宏史\*, 佐藤 文子\*

キーワード：新型コロナウイルス感染症, 公衆衛生看護学実習, 保健師教育, オンライン実習,  
ハイブリッド型実習

### 1. はじめに

2019年12月に中国湖北省武漢で発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、瞬く間に全世界へ感染拡大し、2020年1月16日に日本国内で初めての患者が確認されて以降、日本国内の新規感染者数も第5波に至るまで増減を繰り返しながら推移している。COVID-19の感染拡大により、地域における感染症対策の中核である保健所を中心に、業務が逼迫しており、実践的学修の場となる臨地実習の実施を困難にしている。

保健師助産師看護師学校養成所指定規則(文部省・厚生省, 1951)において、保健師養成の教育内容は、保健所・市町村を含む臨地実習が必要であると定められている。

COVID-19の国内感染拡大を受け、厚生労働省(2020)は保健師養成所における取り組みについて、「保健所及び市町村での実習時間や継続した指導の時間が短縮された場合は、地域診断などを活用し、学習についてはその目標を明確にし、事前学習及び振り返りを十分に実施すること」とした。また、文部科学省(2020)は実習施設の確保が困難である場合は、「実情を踏まえ実習に代えて演習または学内実習を実施する

ことにより、必要な知識及び技能を取得すること」としている。大阪府下では2020年度は3日間のみ、2021年度は6～8日間のみ保健所・市町村での臨地実習となったことを受け、本学においても臨地実習に代わり、オンライン実習や学内対面演習を中心としたプログラムへの変更が余儀なくされた。COVID-19の影響は長期化することが予想されており、かつて数十年に一度と言われてきた新興感染症の発生が短期化していることを鑑みると、“With コロナ時代”の新たな保健師教育を引き続き検討する必要がある。本稿では、2020年度、2021年度に本学において臨地実習、オンライン実習、学内対面演習とのハイブリッド形式で実施した公衆衛生看護学実習Ⅰの実践を報告する。

### 2. 倫理的配慮

実践報告のため個人が特定されるものはない。対象となる学生に対し、実習での学びや感想などを報告に用いること、報告の際には個人が特定されるような記述や写真の掲載はしないことを口頭で説明し、同意を得た。

\* 藍野大学医療保健学部看護学科

### 3. 活動報告

藍野大学では、保健師教育課程選択学生 20 名を 2 年次後期末に選抜し、3 年次以降は選択学生を対象とした科目を構成している。4 年次配当科目である「公衆衛生看護学実習 I」は、地域の特性と地域住民の生活を把握し、保健所・保健センターにおける、健康課題に応じた個人・家族・集団・地域への公衆衛生看護活動の具体的な展開を学ぶとともに、地域住民の健康を維持増進するシステムを広い視野から捉え、そのシステムの中での公衆衛生看護の機能と役割を理解し、保健師活動に必要な実践能力の基盤を習得することを目的としている。この目的を達成するため、学生を 4 グループに分け、大阪府下の自治体にて 4 週間の臨地実習を計画しているものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、2020 年度（3 日間）、2021 年度（6～8 日間）ともに臨地実習日数が短縮された。実習目標を達成するため、オンライン会議サービス「zoom」を用いたオンライン実習と学内対面演習を組み合わせたハイブリッド型の実習を展開した。

#### 1) 実習プログラムの構成

「藍野大学公衆衛生看護学実習 I」実習目標、「保健

師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」を踏まえ、2019 年度以前と同様に地域診断、家庭訪問・健康相談等の個人・家族への個別支援、健康診査・健康教育等の集団支援、施策化のプロセス、健康危機管理で構成した。

2020 年度に臨地実習日数が 3 日間に短縮されたことを受け、臨地実習の中で、優先すべき実習項目として、「健康診査」「家庭訪問」は必ず経験できるよう実習施設と調整した。優先すべき実習項目を設定した実習が効果的であったことから、2021 年度は臨地実習日数が 6～8 日間に延長されたものの、引き続き優先すべき実習項目を設定し調整した。これまで、地域住民を対象として実施してきた「健康教育」は機会の確保、事前指導が困難な状況であることから、学内演習で実施することとし、その他のプログラムについても学内演習での実施とした。実習の全体スケジュール例を表 1 に示す。限られた臨地実習の機会を有意義なものとするため、グループ毎の臨地実習日に合わせて前後の実習内容を組み、準備性を高められるよう調整した。

表 1 2020 年度公衆衛生看護学実習 I 実習日程例

日	実習形態	午前	午後
1 日目	オンライン	前期実習オリエンテーション	地域診断プレゼンテーション
2 日目	オンライン	DVD 視聴（家庭訪問）	事例を用いて家庭訪問計画の作成
3 日目	学内	家庭訪問演習（ロールプレイ）	講話「あいりん地区での保健活動」
4 日目	オンライン	地区踏査計画の立案	健康課題関連図の作成・発表準備
5 日目	オンライン	健康課題関連図の発表	健康課題解決に向けた活動計画の検討
6 日目	学内	後期実習オリエンテーション	DVD 視聴（乳幼児の発達・結核）
7 日目	オンライン	DVD 視聴（健康相談）	4 か月健診演習・実習準備
8 日目	臨地実習	4 か月児健診見学	オリエンテーション
9 日目	オンライン	実習の振り返り	地区踏査計画
10 日目	学内	DVD 視聴（健康教育）	健康教育指導案作成
11 日目	臨地	地区踏査	
12 日目	学内	健康教育媒体作成	家庭訪問計画
13 日目	臨地実習	家庭訪問同行：2 名	家庭訪問同行：3 名
14 日目		赤ちゃんふれあい教室	結核管理・接触者健診
15 日目		乳がん検診	
16 日目	オンライン	健康教育リハーサル	健康教育指導案・媒体修正
17 日目	オンライン	DVD 視聴（地区組織活動）	地域診断修正
18 日目	オンライン	地域診断修正	最終カンファレンス準備
19 日目	学内	地域診断発表リハーサル・修正	1 歳 6 か月児健診予診演習（ロールプレイ）
20 日目	臨地実習	最終カンファレンス	1 歳 6 か月児健診予診
21 日目		地域診断発表	小児慢性スクリーニング会議
22 日目		継続訪問：1 名（母子）	
23 日目	学内	地域診断発表	各実習先での学びの共有
24 日目	学内	健康教育発表会	実習のまとめ、評価・面接

## 2) 実習内容

### ①地域診断

既存の二次資料から得られたデータや一次資料から、地域の健康課題を導き出す「地域診断」では、臨地実習日とは別に実習地に赴く「地区踏査」を実施した。レンタサイクルや公共交通機関を利用して、実習地域で暮らす人々を取り巻く環境、地域に根づく文化や歴史、生活の様子を、乳幼児から高齢者の発達段階に合わせた視点で観察した。感染対策を講じた上で開設されている子育て支援施設の見学やスタッフへの聞き取りなどを通して、コロナ禍における母子の孤立、高齢者の閉じこもりやフレイルの進行などの健康課題に気付くことができた。

### ②家庭訪問

個人・家族への支援の中でも家庭訪問は、対象者の生活の場において展開される援助技術であり、より効果的な指導が行える利点がある。本学の実習においても臨地実習での必須経験項目として設定しており、限られた実習経験を確実に学習成果につなげられるよう準備性を高める工夫を取り入れ実施した。

臨地実習前の学内演習で、家庭訪問に関する視聴覚教材をオンラインで視聴後、事例を提示し、家庭訪問計画を各自で立案した。登校日の対面演習では、新生児のモデル人形を使用し、家庭訪問の実践例を教員が実演し、場面ごとの保健師の役割について解説を加えることで理解を促した。教員による実演の見学後、学生がペアとなり「保健師役」「母親役」をそれぞれ担い、新生児モデル人形を使用した身長、体重、頭囲、胸囲の測定を実際に行うロールプレイを実施した。各役割以外の学生がロールプレイの観察者となり、評価した。

臨地実習では、学内演習の経験を踏まえ、個別の訪問計画を立案し家庭訪問に同行し、対象者の自宅内外

の生活環境の把握、家族も含めた援助、継続する自宅での生活を見据えた保健師の関わり方について学んだ。

### ③健康相談

学内演習で視聴覚教材を用い、健康相談の種類や対応について学び、教員の講義により補完した。多くの学生が、臨地実習で難病、母子保健や感染症に関する健康相談を見学することができた。臨地実習で健康相談を十分に経験できなかったグループにおいては、保健所保健師による新型コロナウイルス感染症患者への積極的疫学調査について、zoomを用いてロールプレイを実施し、学生が患者役を担当した。実際に行われている調査を経験することで、聞き取り項目の持つ意味、保健師の対象者に寄り添う姿勢を学んでいた。

### ④健康診査

健康診査は優先項目として挙げていたため、全員が臨地実習で乳幼児健康診査を経験することができた。臨地実習での対象者への問診実施に向け、問診項目の再確認と事前にロールプレイを実施するなど実習での経験が最大限活かされるよう準備した。臨地実習では、健診受診者に対し、円滑に問診を実施することができた。学生からは、「見学するのと実際にするのは全然違う。緊張したが保健師のサポートで何とか問診できた。」との感想があった。

### ⑤健康教育

本来は、臨地実習で地域住民を対象として実施する項目であるが、実習期間に限られていることから、地域住民を対象とした実施を想定し、学内で取り組んだ。①の地域診断で導き出された健康課題および臨地実習で得た情報、地域の文化的な特性も踏まえ、企画・立案した各グループの健康教育テーマと対象を表2に示す。2020年度は週2回の登校日以外は、zoomを活用しグループワークにて対象地域・対象者に合わせたテーマの設定、企画を進め、登校日には媒体作成やり

表2 学生が実施した健康教育のテーマと対象

テーマ	対 象
2020年度	
①イヤイヤ期における対処法について	1歳6ヶ月児健診に来所した児と保護者
②10年後もやりまわしできるんけ？ －糖尿病を予防するための食生活と運動について－	18歳～39歳の住民
③子どもと楽しく安全に	生後3か月～6か月未満の乳児とその保護者
④さあ、自分自身の生活習慣を知ろう!!	特定健康診査の結果、初めて糖尿病疑いの診断を受けた方
2021年度	
①お口のばい菌バイバイきん!	1歳6か月児健診に来所した児と保護者
②コロナに負けるな!いきいき健康教室	介護予防教室の参加者(65歳以上の住民)
③仕上げ磨きで歯っぴい	3歳6か月児健診に来所した児と保護者
④子育てで悩まれたり、ストレスを感じていませんか?	1歳6か月児健診に来所した児と保護者

ハースルを行うなど、遠隔実施と対面実施を組み合わせることで、効果的な学内実習が展開できた。2021年度も、2020年度同様に学内において学生間で発表し、一部のグループは臨地実習時に実践することができた。

#### 4. 結果および考察

実習施設の臨地実習指導者と大学教員で、実習終了時に行う評価会議では、2020年度、2021年度ともに「実習目標が達成された」との評価し、臨地実習指導者からも実習記録やカンファレンスを通して、従来の臨地実習と遜色ない学びがあったと講評を得たことから、本学で実施したハイブリッド型実習は学習方法として効果的であった。

##### 1) 地域診断

二次資料の収集・分析に加え、地区踏査を強化して

実施したことによって、実習地域で生活する母子、成人、高齢者それぞれの視点に立ち地域を見る力を養うことができた。地区踏査や臨地実習で得られた住民の声を反映し、地域の人々の生活と健康を多角的に捉え、顕在的・潜在的な健康課題の抽出、優先順位の決定、健康課題解決のための活動計画が立案できた。また、新型コロナウイルス感染症流行下における特有の健康課題も見出すことができた。学生は、「地域診断を通して、地域住民の健康を多角的に捉えることの重要性を理解した」「健康課題に基づく健康教育の企画・実践により、保健師が行うPDCAサイクルを経験することができた」と述べており、これらのことから実習目標2(表3)は達成されたと考える。

##### 2) 家庭訪問

Webによる事例の提示とそれに基づく計画立案、対面演習で立案した計画に基づくロールプレイを実施したことにより、「緊張感を持って指導を実践できた」

表3 公衆衛生看護学実習Ⅰ実習目標

- 
- |  |  |
|--|--|
| <p>1. 地域で生活する人々の健康の維持増進と予防を行う公衆衛生看護に必要な倫理的姿勢を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 公衆衛生看護活動における倫理的問題を事例を通して述べるができる。</li> <li>2) 公衆衛生看護活動が、地域の人々の生命・健康、人間としての尊厳と権利を守るための活動であることを説明できる。</li> <li>3) 公衆衛生看護活動の効果・効率性と公平性・公正性を考えることの重要性を説明できる。</li> </ol> <p>2. 個人/家族および集団/地域の健康課題を明らかにし、解決・改善策を計画・立案することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域の健康課題を明らかにするために、適切な情報収集ができる。</li> <li>2) 地域の人々の生活と健康を多角的・継続的にアセスメントできる。</li> <li>3) 地域の顕在的、潜在的な健康課題を見出すことができる。</li> <li>4) 地域の健康課題の優先順位を適切に決定することができる。</li> <li>5) 地域の健康課題に対する支援を計画・立案することができる。</li> </ol> <p>3. 地域の人々と協働して、健康課題を解決・改善し、健康増進能力を高める支援について理解することができる。</p> <p>【個人/家族】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 個人/家族の生活様式、行動様式、経済状況、習慣、価値観など生活に配慮した支援ができる。</li> <li>2) 個人/家族の健康課題に応じた保健指導(健康教育・健康相談・家庭訪問)を実施し、評価結果を生かした次回の支援計画を立案できる。</li> <li>3) 個人/家族の健康課題解決のために、個別支援と組織的アプローチを組み合わせた支援について説明できる。</li> </ol> <p>【集団/地域】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域の人々の健康課題に対する考えや意向を尊重した保健活動を実施できる。</li> <li>2) 地域の人々・関係者・関係機関と保健師の協働におけるそれぞれの役割を事例をして明らかにできる。</li> <li>3) 地域の健康課題解決のための活動に対する評価項目を挙げるができる。</li> </ol> <p>4. 地域の健康危機管理について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 個人/家族に生じる健康危機(虐待、DVなど)の背景、発生機序、支援にあたっての問題・課題を事例をとおして分析し、予防策を検討することができる。</li> <li>2) 集団/地域の感染症などの健康危機発生に伴う健康課題解決に向けた支援計画や、健康危機を支援するチームとなる関係者・機関との連絡調整を理解できる。</li> </ol> <p>5. 地域の人々の健康を保障するために、生活と健康に関する社会資源の公平な利用と配分を促進することを理解し、説明できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 社会資源の開発について説明できる。<br/>特定の地域の健康課題の解決のために活用できる、フォーマル・インフォーマルな社会資源(セルフヘルプグループを含む)を把握し、地域における既存の資源の見直し、新たなネットワークや社会資源創出の方法を説明できる。</li> <li>2) システム化について説明できる。<br/>関係機関や地域の人々と協働して地域ケアシステムを構築するプロセスを、事例を通して具体的に説明できる。</li> <li>3) 施策化について説明できる。<br/>地域の人々の特性・ニーズ、健康課題にかかわる情報収集・分析から、それらに基づく事業立ち上げの過程を、事例を用いて説明できる。</li> </ol> | <p>実施したことによって、実習地域で生活する母子、成人、高齢者それぞれの視点に立ち地域を見る力を養うことができた。地区踏査や臨地実習で得られた住民の声を反映し、地域の人々の生活と健康を多角的に捉え、顕在的・潜在的な健康課題の抽出、優先順位の決定、健康課題解決のための活動計画が立案できた。また、新型コロナウイルス感染症流行下における特有の健康課題も見出すことができた。学生は、「地域診断を通して、地域住民の健康を多角的に捉えることの重要性を理解した」「健康課題に基づく健康教育の企画・実践により、保健師が行うPDCAサイクルを経験することができた」と述べており、これらのことから実習目標2(表3)は達成されたと考える。</p> |
|--|--|
-

と学生は述べていた。母親役の学生が基本設定にオリジナリティーを加えた母親役を演じたことで、臨機応変な対応や個別性を踏まえた支援の重要性を理解し、個別性に応じた保健指導を展開する技術の習得に繋がった。若杉ら(2016)は「保健師の援助技術において家庭訪問や保健指導は、対象である住民の生活実態に迫るといって、重要かつ象徴的活動方法である」と述べており、新人保健師が困難と感じる事柄として「思うように家庭訪問ができない」ことが報告(川端ら, 2020)されている。保健師として修得する必要性の高い家庭訪問について、オンライン実習と実技の実施も含めた対面演習を組み合わせた実習によって、臨場感を持って取り組むことができ、実習目標3(表3)が達成できたと考える。

### 3) 健康相談

臨地実習で健康相談を経験できなかった学生に対し、保健所保健師とのオンライン実習の中で新型コロナウイルス感染症の積極的疫学調査を経験できた。鋪野ら(2020)は、「COVID-19の影響により、従来の臨地実習が出来なかったことは悲観すべき事ではなく、今まで常識として捉えていた‘臨地実習’を見直す機会と捉え、イノベーションしていく第一歩」と述べている。本学においても保健所と連携しweb実習を導入し、健康相談を経験したことで、臨地実習での経験を補完し、実習目標の達成につながったことから、実習プログラムを新たに構築した効果が得られたものと考えられる。一方、住民と直接関わる機会がなく、保健師としての感性の醸成が十分できなかったことは、今後の課題である。

### 4) 健康診査

健康診査は、臨地実習での優先項目とし全学生が臨地実習で乳幼児健康診査を経験することができた。野村(2018)は、学生と対象、指導者、組織(実習施設)そして教員という複雑な関係性の中で生じる相互作用を活かして効果的な学習を創り出す場を整えることの重要性を述べている。限られた臨地実習期間の中で、実践感覚を養うために必須である項目として全学生が経験できるようプログラムを構成したことで、学生間においても経験の差が生じなかった。共通の学びとして、「母親の育児に寄り添う保健師の姿勢」「組織内外の多職種連携、組織間連携」「保健師の“つなぐ”機能」が挙げられ、実習目標が達成できたと考える。

### 5) 健康教育

学内実習で学生間での発表ではあったものの、地域診断から抽出された健康課題に基づき、健康課題解決に向けた企画の立案、実践、評価までの流れを経験したことで、PDCAサイクルを経験から理解し、学生の達成感につながっていた。一方、対象者が学生であることから、緊張感や臨場感を持たせることが困難であり、住民の反応を体感することができなかった。住民の反応が得られる場を設定するためにも、今後、オンラインでの実施体制などを構築していく必要がある。

### 6) ハイブリッド公衆衛生看護学実習の展望と今後の課題

オンライン実習でのグループワークでは、「オンライン実習では、グループワークに積極的でないメンバーをうまく巻き込めず困った」との学生の意見があった。Hasanら(2020)は、コロナ禍でE-learningのみに頼る大学生の学習の課題として、対面でないために学生の状況を教員が把握してフォローすることができないことを挙げている。また、櫻井ら(2018)が、看護学の実習は、それまでの学習で得た知識と技術を応用して、より良い解を自らの力で見出していく試行錯誤の実践であり学生の不安が大きいと述べていることから、オンライン実習は、通常の実習以上に細やかな学習支援が必要であることが示唆された。

また、実習時間の管理について、「実習時間外に取り組むグループワークが長時間に及ぶことがあり、体力的にしんどい時があった」との感想が聞かれた。久保(2017)は技術革新が利便性や生産性の向上をもたらす一方、オンとオフの境界を曖昧にし、疲労回復、ストレス、睡眠等に悪影響を及ぼすリスクを指摘していることから、オンライン実習において、学習時間の管理や、時間外の作業の管理について、意識的に働きかけることが重要であることが示唆された。

これらのことから、オンライン実習を実施する際は、活用する際の運用上のルールや、学生の健康状態やストレスなどの配慮すべき事項を整備する必要がある。また、グループダイナミクスが発揮できるよう、教員が意識的に働きかけ、学生同士が相互作用から学ぶ学習環境を整えることが重要であると考えられる。

2020年度、2021年度に実習を修了した学生からは、「面白い」「保健師の機能・役割が理解できた」「将来必ず保健師になる」等の感想が聞かれ、学生の保健師就職希望者増加につながった。このことから、本学

において実施したハイブリッド型公衆衛生看護学実習の目標が達成されたと考える。

## 5. ま と め

2020年度、2021年度に実施した臨地実習、オンライン実習、学内対面演習を組み合わせたハイブリッド型公衆衛生看護学実習において、従来の実習と同様の教育効果が得られ実習目標が達成された。

一方、住民の反応が得られる場を設け、保健師としての感性を醸成する機会を確保する必要があることが示唆された。オンライン実習においては運営上のルールや時間管理についての配慮、グループダイナミクスが発揮できる働きかけなど、より細やかなサポート体制を構築することが今後の課題である。

### 利益相反の有無

本研究に関連して、開示すべきCOIはありません。

### 引用文献

- Hasan N., Bao Y. Impact of “e-Learning crack-up” perception on psychological distress among college students during COVID-19 pandemic: A mediating role of “fear of academic year loss”. *Children and Youth Services Review* 2020; 118: 1-9.
- 本田光, 近藤圭子, 田仲里江他. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大に伴い実施された保健師基礎教育における代替的実習の実践報告. *保健師教育* 2021; 5(1): 75-85.
- 川端泰子, 千田みゆき. 行政で働く新任保健師の困難に関する文献検討. *埼玉医科大学看護学科紀要* 2020; 13(1): 41-7.
- 厚生労働省医政局看護課. 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師など養成所における臨地実習の取り扱いなどについて. 2020 [閲覧日 2021-10-07]. URL: <https://www.mhlw.go.jp/content/000642611.pdf>
- 久保智英. 近未来を見据えた働く人々の疲労問題とその対策を考える——オンとオフの境界線の重要性——. *労働安全衛生研究* 2017; 10(1): 45-53.
- 文部省・厚生省. 保健師助産師看護師養成所規則. 1951 [閲覧日: 2021-11-11]. URL: <https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=326M50000180001>
- 文部科学省高等教育局医学教育課. 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について. 2020 [閲覧日: 2021-10-07]. URL: [https://www.mext.go.jp/content/20200624-mxt\\_kouhou01-000004520\\_1pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200624-mxt_kouhou01-000004520_1pdf)
- 野村美千江. 実習指導の原理——公衆衛生看護学実習が授業として成立するために. *保健師教育* 2018; 2(1): 10-8.
- 鋪野紀好, 塚本知子, 生坂政臣. 千葉大学総合診療科におけるオンライン臨床実習の取り組み. *医学教育* 2020; 51(3): 286-87.
- 若杉早苗, 鈴木知代, 入江晶子他. 公衆衛生看護技術論演習及び実習のカリキュラム改正における保健師学生の実践力向上効果——ミニマム・リクワイアメントを活用して——. *聖隷クリストファー大学紀要* 2016; 24: 17-31.